

みずみどり

1999年5月15日 第12号

発行：いたばし水と緑の会 事務局

年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
ホームページ <http://www1.odn.ne.jp/~cae98300/itabashi.html>

〒173-8501 板橋区板橋2-66-1 TEL 03-3579-2598
板橋区環境保全課内 FAX 03-3579-2589

会の結成から3年目を迎えて

いたばし水と緑の会会長 三園1丁目町会長
鈴木 信子

4月29日、いたばし水と緑の会の総会も無事終了しました。総会に先立ち、静岡県三島市よりグラウンドワーク三島実行委員会の小松幸子さんにお出でいただき、講演会をもちました。

富士山からの豊かな湧水に恵まれた、かつての「水の都三島」の存亡の危機を救おうと立ち上がった市民、企業、行政の三者がパートナーシップを組み、地域の環境改善に取り組む現状と、それまでの苦闘を誇らしく楽しげに話されて、第二のふるさと板橋の失われた自然の再生を目標にそれぞれの分野で活動されている会員にも大変参考になり、勇気を与えられた講演でした。

赤塚ため池公園の池づくりには、大勢の方々のご助力をいただきましたが、私の地域である三園小学校からもご家族で参加して下さった方もあり、若いお父さん達の援軍は頼もしい限りでした。今年度には学校内にビオトープの池ができるとのことで、子供達にとってすばらしい環境教育の現場になることと期待しています。

身近なところから、環境問題に目を向け実行することの大切さを学んできましたが、これから何を手がけようかと若い方々と一緒に夢をふくらませるのも楽しい限りです。

世代を越えた人々の力で次世代に少しでも住み良い地球環境を残したいと思います。よろしくお力添え下さい。

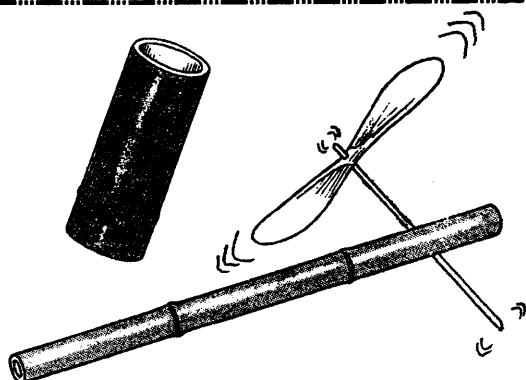
講演会と総会の報告：

講演会の出席者は27人。講演会に来てそのまま入会された方もいて、大変うれしいことでした。講演会資料をご希望の方は、事務局にお申し出ください（資料代300円）。

総会では、11年度の活動計画が出され、会長、各プロジェクトのリーダーの統投が決まりました。総会后、1時間ほど5班に分かれ、会の将来像を話し合うワークショップをしました。次回にでも報告します。

新企画 竹・竹・竹・・・

成長の早い竹の活用方法として生活用具や遊び道具をつくり、手で作ることを経験し、利用することを考えています。何か作ったことがある人、道具を持っている人、経験者を知っている人、やってみたい人、事務局へご連絡ください。



生き物たちの水辺ができました

坂本 郁子

初めての市民参加

生き物の水辺づくりは、計画から仕上げまで「できるところは市民参加」が前提でした。ただ、計画づくりは公募によらず、地元町会、いたばし水と緑の会、行政などの関係者による検討でまとめました。その経過は会報8号で山下さん、9号で真崎さんが紹介しています。

3月7日に梅まつりが終わって、整備を受託した池田園さんがコンクリートを壊し、掘削し、防水シートを張るところまでやり、その後の粘土張りや土入れなどを池田園さんの指導の下に市民が参加して作業しました。けっこうな肉体労働でしたが、事故もなくなごやかに終わってほっとしています。

たくさんの方に参加していただいたのは、生き物の水辺をみんなで大事にしていきたいからです。ボランティア募集のPRは、いたばし水と緑の会などの会報や、エコポ、広報いたばし、梅まつり・農業まつりの会場での呼びかけによ

って行いました。ボランティアによる作業日は雨や曇りのち雨の不運な天候でしたが、3日間で延べ98人が参加して下さいました。

市民参加の整備後、なにがあったか

(1) ホタルの水路が予想外に痛んでいて水抜けがひどく水路を直しました。それでも池は満水にならずオーバーフローして流れていきません。水面の設計高さを変えるため、16日に堰板を低くする作業をします。

(2) 金魚、ザリガニ、カメが放されてしまいました。投げ込まれたショウブはとりました。

(3) 池の周囲に高い柵をつくりました。少なくとも1年間はこのままです。人が入ると草も生えなくなるからです。

(4) 掲示板をつくりました。重要な情報源となります。ここに来られた方の意見や情報も書き込める連絡帳を据え付けたいと考えています。

作業はほぼ終了、後は水草を植えるだけ
3月29日



粘土の締固め作業 3月27日



生き物の水辺はこれからどうなるのか

池づくりは終わりましたが、生き物の水辺はこれからです。管理の中心は、環境保全課とい
たばし水と緑の会赤塚の森ボランティア、それ
からこの水辺を見守っていきたくないと希望される
みなさんです。

生き物のための水辺が、利用者の多い公園に
出現するのは初めての試みです。いろいろな意
見や問題が出てくると思います。現状や対処方
法についてもみなさんにお知らせし、「何のた
めに」「何をしている」のかがわかる運営を目
指したいと考えています。

「都会の自然をどうするか」みんなで考えたい

赤塚の森ボランティア

自然観察マップの「身近な森について」にも
島井さんが書いていますが、「自然のために何
かしてあげたい」と手を出すことが、自然のた
めにならないなんてことが多いらしいのです。
よくピオトープという言葉が使われますが、ピ
オトープとは生物の生息する空間という意味で
す。ピオトープが言葉だけにならないように、
ここで自然を守る原則をはっきりさせる必要が
ありそうです。

(1)人は世話を焼かないのが自然なのだ

池に続く地面については、人が入りそうなと
ころにトゲのあるノイバラを20本植えました。
後は、種が鳥の糞に混じって落下したり、風で
飛んできて発芽するのを待ちます。踏んだりし
なければ陸上の植物はすぐに生えてきます。外
来種でもいいじゃないですか？水草も草や木の
種子より時間がかかりますが、種が風に乗
り、また水鳥の脚にくっついてやってきて、芽を出
し育っていくはずで。今回は水草は植えまし
たが、自然は「つくる」のでなく「待つ」のが
原則でしょう。

(2)人にとっての快適性より、生き物にとって

の住み易さを選ぶ

都会で「雑草」や藻（アオミドロ）は、ゴミ
と同じくらい汚いとされています。公園の一角
に出現する生き物のための雑草が、どこまで認
めてもらえるかはまだわかりません。生き物の
ための場所を理解してもらうために、お知らせ
や観察会なども工夫が必要です。それが環境学
習になると思います。

(3)新しい「自然とのふれあい」をつくる

子供達に水の中でどろんこになって生き物を
捕まえさせたい、自然と触れ合わせたいと言
う意見もたくさんありました。しかし、ここはと
ても小さな場所です。昆虫はやってくることは
できますが、昆虫のすむ環境が持ちません。生
き物とのふれあいは、自然が豊かにあった時代
とは別のあり方があるはずで。生き物を捕ま
えなくても自然が好きになる、そんなメニュー
を赤塚の森ボランティアが中心になってつく
っていききたいですね。

市民が参加してつくった水辺です。市民が保
全するピオトープを成功させたいと思います。

この春のニリンソウ事情

区の花ニリンソウを保存する会 香取 孝作

今年の開花は早く、例年のニリンソウパトロールは、3月28日から4月11日になり、延べ86人がパトロールにでました。赤塚公園管理所からテントを借り、土日のパトロールの詰め所にしました。

赤塚公園でニリンソウのネクタイピンとスカーフ止めがつくれ、記念品として1個100円で、ニリンソウの会が40個引き受け、会員に配布しました。

また、公園協会職員、「川中美幸」プロダクションの関係者、板橋区みどり公園課が共同で観察に来ました。

今年は花が少ないというのが会員の意見でしたが、方形区の調査でもそれを裏付けました。

例年なら満開をすぎて1週間くらいで、花が見られなくなるのですが、4月25日過ぎでも鑑賞できました。気温などの関係で、花の命が

長くなったのかもしれませんが。

ニリンソウの異常

これまでもニリンソウの株でトウが立って、花がつかないのが時々観察され、また、葉の表面に虫の卵のようなものが観察されていましたが、今年も同じような株が何株が観察されました。会員の一人が、関係機関に問い合わせ、さらに葉の一部を見せて「さび病」「くろほ病」と判断されました。

赤塚産線ニリンソウ自生地ほぼ全部を調査して、その記録をとってくれました。

やはり心配していたことが事実となりました。防除の方法はわからないようです。今まで全く観察されなかった訳ではないのですぐにニリンソウが全滅する可能性はないと思います。今後病気の株の観察を強化する必要があります。

クロスジギンヤンマが大量羽化！

去年の5月、クロスジギンヤンマが卵を産んでいった。乗蓮寺下の掘ったばかりの池にだ。見るたびにヤゴは育ち、期待も育つ。11月には大きくなったヤゴと対面、来年トンボになってからまた会おう！

そして5月になった。おおよそ80匹余り、彼らは飛び発っていった。エー、おまえらそんなにいたのー！！羽化開始は多分5月2日頃、9日の羽化殻回収数は70数個。最初に見つけたのは小松、江戸の両名、5月5日のことでした。今度は美術館前の新しい池に来るのを待ちたい。(釣巻岳人記)



1999年5月5日 江戸きよみ撮影

第2回いたばしボランティア広場に参加して

眞崎 美和子

3月22日(月)、昨年の大雪に続き今年は強風の
中、個人参加も含め、約50団体の参加となりま
した。水と緑の会としては各ボランティアが日
頃の活動を紹介するコーナーへ、荒川自然回復
団と赤塚の森ボランティアとして参加しました。

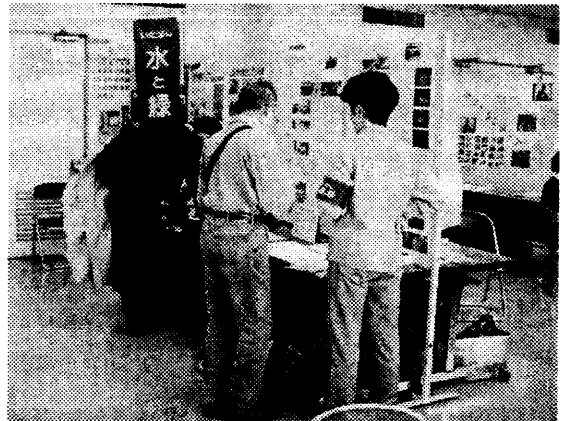
荒川自然回復団が荒川河川敷笹目橋付近での
自然回復作業の様子や観察された昆虫や植物
の紹介等で、赤塚の森ボランティアは赤塚城址
付近での自然回復作業の様子や、出来立ての自
然観察マップの紹介等を写真や説明をつけてパ
ネル展示をしました。

当日はあいにくの天気でしたが、会場を訪れ
私たちの展示内容に興味を示して熱心に聞いて
行かれた方や入会してくれそうな方もいました。
また普段なかなか出来ない他のボランティアの
人たちとの交流や点字などの1日体験も味わつた
り、諸外国の民芸品や本場パツラゲツユカレーの
販売もありました。

ボランティア広場自体まだ2回目で、会の担当
として参加したものの、2人とも初めてだった

ので手探り状態でした。終えてみて感じたのは、
パネル作りを通じて約1年間の活動を見返して
新たな発見があったことと、活動紹介を通じて
新たな仲間づくりや、他のボランティアとの交
流ができるので、もっとお互いが協力して、な
にかできるといいなということです。

同時に、環境部門での自然保護ボランティア
の参加は少なく、まだまだアピールしていく必
要性も感じました。



「荒川クリーンエイド・フォーラム NPO申請中」 木村 延明

毎年秋に荒川河川敷でゴミ拾いのイベントに
参加していますが、このイベントの事務局であ
る荒川クリーンエイド・フォーラムが、イベン
ト経費などの税の優遇措置を考慮して、NPOの
登録を申請中です。

今後水と緑の会は、NPO法の関係から荒川ク
リーンエイドの行事に関して上記フォーラムの

団体会員となります。今までとは、別段変わり
はありませんが、団体会員として年会費
(¥1000)を納める点が若干異なります。

NPO登録について、フォーラムの総会(5/22)
の場で検討されますので、御意見のある方は世
話人(木村)までご連絡下さい。

荒川の河原でレンジャクを見ました

高野 十太郎

今年2月21日荒川の河原で「バンディング見学会」がありました。その休憩の時栗林さんが「これ、何のかしら」と一枚の羽を出しました。講師の梶田先生は一目見るや、「これはレンジャクの風切り羽です」と認定しました。居合わせた方から「どこで拾ったの」と聞かれ「家の庭に落ちて居たんだ」「ふーむ。じゃあ栗林さんの所にレンジャクが来たんですね」「イヤどうかね。私は見てないんだ」きっと栗林さんが留守だったので、訪ねて来たレンジャクが名刺代わりに置いて帰ったのでしょう。

レンジャクは綺麗な鳥で、バードウォッチャーに人気があります。図鑑の表紙などにも使われて居るくらいです。しかし其の行動は大変気紛れな寒い時期の渡り鳥で、なかなか観察されません。ピラカンサの実を食べ過ぎて、多数、落ちて死んだと報道されることもあれば、年によっては全然渡って来ない事もあるそうです。

3月13日、いたばし野鳥クラブ月例の荒川河川敷野鳥調査がありました。栗林さんをご都合で参加されず会員5名で行われました。大変寒い中、午前9時30分、浮間舟渡から出発、生物生態園、その付近の河川敷などの鳥の種類、個体数を調べました。午後になると幾らか暖かくなり、調査も順調に進みました。コミミズクの越冬していた浚渫残土置場の西側を、野球場の端にそって土手から川岸までの中間に来た時です。コミミズクは帰ってしまっているだろうが、なにか猛禽類は居ないかと捜して居ると、後ろで他の方行を見ている方が「レンジャクが

いる」と言いました。一瞬耳を疑いました。教えられた目標のモチの木に双眼鏡のピントを合わす。余り大きくないモチの木の実には既にヒヨドリやムクドリに食べられ残り少ないのが、枝移りしながら実をさがす赤みがかった顔、シメより長くはっきりした黒い過眼線のある鳥が見えた。すぐに飛び立って、川下の柳に移った。今度はプロミナーで覗く。芽吹き始めた柳の梢に尾羽の先が赤い鳥が揺れている。3羽居る。後頭部の尖った冠毛、ヒレンジャクです。レンジャクには緋レンジャクと黄レンジャクの2種あります。尾羽の先の色で見分けます。ベテランの方は日本に来るのが少ないキレンジャクを好みますが、私はどちらを見ても嬉しい。幸せをかんじます。やがてレンジャク達は下流の生態園の方に飛び去りました。

今の様な状態では、レンジャクを見る確率は非常に少ないが、自然が回復され、多くの方に美しい鳥を楽しんで頂ける様になってもらいたいと思いました。



ヒレンジャク (フィールドガイド日本の野鳥より)

遠い昔の暮らしと自然(3)うなぎと私

矢田 茂

美しい緑が優しく野山を包む、この季節になれば水辺は子供の天国。なかでも穴釣りは、子守しながらできるので夏一番の人気者であった。

川底から積み上げた石の隙間を良く見ると、生き物がある穴は石の表面がすれ、入口の小石までが美しくなっている。そこへ穴釣りの先に付けた餌のドジョウを、そーっと紛れ込んだように見せかけ、探りながら鰻を釣りだす。この鰻を素手で掴んだ瞬間、あのぬるぬるとした手触り、必死に逃げようと力強くくねる鰻の荒々しい反抗。その手応えを思い出す。

もしも、連れていったよちよち歩きが、おぼつかない足を滑らせ、浅いところへはまり込んでも、自分で遣い上がらしたもんだ。年寄りでもいれば、「助けるな、ほっとけ、ほっとけ」と言われるのが関の山。

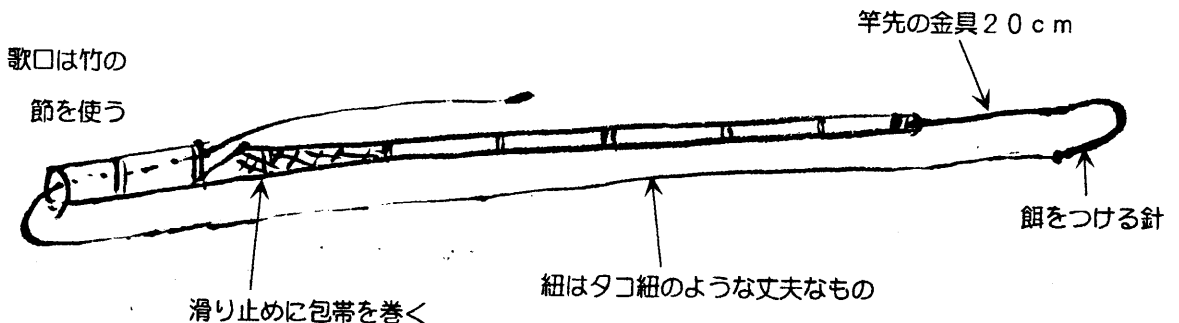
それは薄情なようだが一步外へ出れば、危険な野井戸もあればマムシもいる。そこを遊び場にする子供に吐く、爺のしつけだろう。当時の年寄りも、遠慮もなく、悪態をまき散らしながら楽しんでいる、喧しい半鐘であった。

こんな雑音もあるが川遊びは、子供たちの喜びに変わりはない。穴釣りはドジョウすきと違って腕前を見せ、下手くそでは餓鬼大将にはなれない。越えるハードルは、自分の知恵と才覚で鰻を探り、売って小遣いにする事だ。これは育ち盛りには大変な魅力、集まる水辺は子供たちで、それぞれが夢を創った。

ふとその頃を思い出す。当時は食べるのも、遊ぶのも思うようにならない時、家はたずきも貧しく不自由ではあった。しかし近くに子供の国と言える川原があった。

子供たちが作る穴釣りの竿

歌口の必要は大きな鰻が釣れたとき、その口を歌口で絞め込んで引き出す。小さな鰻にはあまり使わない。歌口と言われる表現は尺八の歌口からと思われる。先端は針をかけやすい、股になったこうもり傘の金具で作った。手元の歌口の使い方は図の通りひもを通し、釣れたら竿を逆に針の方に寄せ、鰻に合わせてつり上げる。歌口と先端の金具の取り付けには必ず、竹の節を利用する。



活動のお知らせ

定例会は毎月第一木曜日です。6月3日、7月1日、産文ホール第4会議室(4階)(食事持ち込みも可)。どなたでも参加できます。

荒川自然回復団

●笹目橋緑地の検討会

笹目橋緑地の自然回復の今後について建設省と話し合います。みなさん参加してください。

日時：5月27日(木) 14:00 北区志茂

5-41-1荒川知水資料館 amoa3902-2271

連絡先：かがみ 5944-7505

(090-1771-7530) 13:30に埼京線板橋駅西口集合(車も)

●笹目橋緑地の水質と生き物調査

自然回復予定地の動植物を図鑑を見ながら調査し、みんなが見分けられるようになることをめざします。パックテストによる水質調査もします。

日時：毎月(6~10月)第1日曜日

6/6、7/4(雨天日は次週へ繰り延べ)

集合：西高島平駅9:45、現地10:00

持ち物：弁当、飲み物、双眼鏡、ルペ、三角紙、図鑑、網、ビニルバケツなど

参加費：200円

連絡先：かがみ 5944-7505 (090-1771-7530)

●大門湿地の再生と観察会第2弾

日時：6月5日(土) 現地10:00

持ち物：弁当、飲み物、図鑑、網、ビニルバケツなど

参加費：200円

連絡先：栗林 3959-2072

野鳥クラブ・区の花ニリンソウを保存する会・いたばし水と緑の会の共催

●板橋区の自然回復についてのシンポジウム

会主催で、11月に計画しています。企画・運営についての意見をお待ちしています。

赤塚の森ボランティア

●整備した自然池の調査と作業

日時：5月16日(日) 1時30分~4時

雨天の場合は5月22日

集合：美術館前の池

持ち物：双眼鏡、よごれてもいい服装、タオル
金槌

連絡先：坂本(3579)2598

●狭山丘陵トトコの森を訪ねる会

森の生態の勉強会をします。

日時：5月23日(日) 8時50分

集合：西武池袋小手指駅改札口前

交通：西武池袋線池袋発8:15快速に乗車

持ち物：弁当、飲み物、双眼鏡、図鑑、帽子

参加費：200円

その他：いたばし野鳥クラブ共催

連絡先：釣巻(3961)2875

●植物調査班募集

図鑑を見ながらつくった水辺と林の雑草の調査をしませんか。

連絡先：釣巻(3961)2875

●林の保護柵づくり

日時：6月27日(日) 午後1時30分~

場所：美術館前

連絡先：坂本(3579)2598

●赤塚世話人会

赤塚の森のあり方について話し合います

日時：6月27日(日) 10時~12時

場所：赤塚5丁目集会所

ツルハシ、カテヤ もつている人は貸して(ださい)。